

和洋女子大学
学長
坂本元子



語学以前に、意思疎通の意欲を
知識よりも、それをどう生かすかを
そんな気持ちの部分こそ大切にしたい

英

語が苦手という理由で国際交流や留学に「二の足を踏む学生がいます。しかし、国際交流で大切なのは語学力ではありません。相手と意思を疎通させたいという意欲があれば言葉はおのずとついてくるものです。同様に、資格取得に向けた勉強で大切なのは、知識そのものではありません。その資格を社会でどう生かしたいかという気持ちの部分であるはずが、

1897年の創立以来、一貫して女子教育に取り組んできた本学は、その教育理念「和魂洋才」「明朗和順」を現代風に再解釈し、「人を支える「心」と「技術」を持って行動する女性」を育てることを新たなミッションとして掲げました。「心」とは、芯のあるしなやかさ、自分の

道を進む勇氣や自信、人にやさしく自分に厳しい倫理観などを指し、「技術」とは、単なるスキルではなく、新しいことを積極的に学ぶ力、社会の要請を発見・解決する力、人の意見に対する理解力や批判力など広い意味を有しています。ミッションを達成するうえで、身につけてもらいたいのが、①自分を知り、誇りを持つ力 ②基礎学力と文章力 ③人を理解し、自分を表現する力 ④課題を解決する力 ⑤社会に役立つ専門力という5つの力です。教養・専門教育を問わず、現在本学の授業はすべて、これらの力の育成を念頭に行われています。英文学や栄養学などを教えるから、5つの力にかかわる「自尊心を高める力」「筋道だつて話せる力」「人とつ

ながる力」課題を発見し解決する力」などを修得するという試みです。

授業中「この問題についてどう考えますか」と質問すると、曖昧な笑顔を浮かべながら隣の人と相談しようとするケースがあります。恥をかくことを恐れているのでしょうか。私たちが育てたいのは、「私はこう思う」と、自分の意見を堂々と言える女性。いわば、①の「自分を知り、誇りを持つ力」の育成です。そのため、教員は、これまで以上に積極的に学生に発言を求め、良い意見をみつければほめることも必要になるでしょう。極端な話、そうしたことに時間が割かれ、知識の伝達が少々遅れてもいいときえ考えています。最低限備えてほしい力を身につけて社会に送り出す。それこそ私たちの役割だと考えているからです。

こうした力は授業だけではなく、大学における活動すべてにおいて醸成されるべきものです。その「環」として、キャンパスの至るところにテーブル、イス、ホワイトボードのセットを用意しました。補習授業を受け、教員に質問をし、学生同士が学び合う場「学びのアゴラ」です。学生の学習意欲が高まるほど教員の負担は増すでしょうが、研究の時間を割いても学生に対応する教員を評価する大学でありたいと思います。

【学長プロフィール】さかもと もとこ●熊本女子大学家政学部卒業、米国コロンビア大学大学院修士課程修了。医学博士(東京大学)。2008年より現職。日本栄養・食糧学会顧問、日本臨床栄養学会顧問、日本栄養士会参与、日本食育学会副会長、長崎県立大学評価委員、消費者庁栄養成分表示検討会委員長。

【大学プロフィール】1897年設立の和洋裁縫女学院を源流に、1949年に開学。人文学群(英語・英文学類、日本文学・文化学類、心理・社会学類)、家政学群(服飾造形学類、健康栄養学類、生活環境学類)。